

理科はN I Eに縁遠い教科のように思われがちですが、科学的な現象や科学技術の取り組みが1面や社会面に大きく取り上げられることがあり、授業で使える記事が少なくありません。朝日新聞では、昨年10月8日朝刊に青色LEDで3氏にノーベル賞、12月4日朝刊にはやぶさ2の打ち上げ成功、今年の1月6日夕刊には、トヨタが燃料電池車の特許を無償提供、が取り上げられました。

月曜朝刊に「科学の扉」が、木曜朝刊に「科学面」があり、最新の科学情報が載せられています。これらの記事の中から選んで、解説してもよいでしょう。

また朝刊に載っている理科に関する情報が三つあります。

その一つは地域面の、翌日の日出・日入、月出・月入、月齢。月齢が15日前後ですと丸く見えます。月齢と月出の関係を横軸に月齢(日)、縦軸に月出(時刻)をとり、グラフに書かせてみても面白いでしょう。春分の日の前日、秋分の日の前日の新聞から、当日の昼の長さを求めさせる問題もできます(春分の日、秋分の日は、厳密には昼の方が若干長いのです)。

社会面には、前日21時の天気図(略図)が載っています。当日の新聞のこの天気図を拡大したものに、2日前・前日の新聞天気図の前線や低気圧・高気圧を赤のボールペンで記入し、その移動を追っていくと、翌日など先の大まかな天気が予想できます。この天気図には短いコメントが載せられていますので、天気を予想する時の参考になります。

さらに、社会面の別のページには、前日午後3時(どの新聞でも午後3時)の実際の各地の天気などが載せられています。この「各地の都市」(朝日新聞は28都市)は新聞によっていくつかは異なります。なぜこの都市を選んだのかを考えさせてもよいでしょう。雨の都市を、当日の新聞天気図に赤のボールペンで小さい円で塗ってみると、天気の変化やどういう場所が雨になるか分かり、生きた気象の学習ができるでしょう。

＝新聞は東京発行の朝日新聞最終版
(鈴木伸男・全国新聞教育研究協議会顧問)